

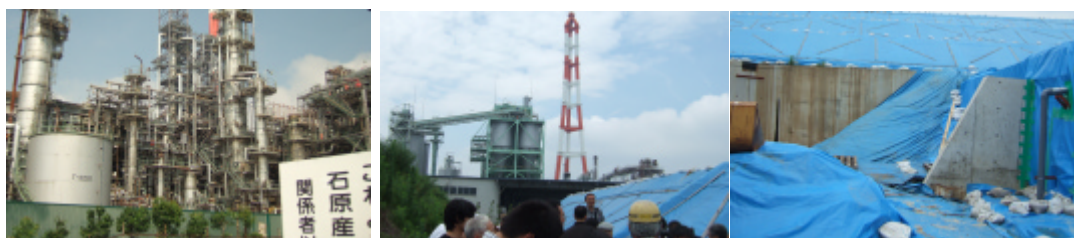
石原産業と『赤い土・フェロシルト』

『赤い土・フェロシルト』は朝日新聞記者・杉本裕明氏の近著である。副題「なぜ企業犯罪は繰り返されたのか」のように、あの公害企業「石原産業」を丹念な調査報道により告発するものだ。杉本記者から12年前「愛知万博」で取材を受けたが、それ以来なにかと注目してきた。多くの記事だけでなく、著書や論文も数多く、いまや第一線の環境ジャーナリストといえよう。

この本も石原産業による不法投棄事件の取材も、情報提供者「X」がいなければ不可能だったという。情報提供を「きっかけ」に持ち前の粘りで真実に迫り、石原産業の3度目の公害犯罪を暴いていく。公害患者の野田之一さんの「海に垂れ流した産廃を今度は山にぶちまけおった。あれだけ社会から批判され、わしらの前で謝ったのに何も変わってなかったたんや」(163頁)という言葉が事件の本質を突く。

本書の感想などは別の機会に書くとして、宮本憲一先生の推薦の言葉を紹介しておこう。「本書は石原産業フェロシルト事件を告発し、近年の企業の環境意識が低下し、公害・環境問題が再燃しつつある現状にたいし、企業や自治体の社会的責任を迫る警世の書である。著者は不正をただすジャーナリストらしく、企業内の生産過程の資料をたねんに集め、当事者のすべてに面接して、事件を徹底的に究明している。"バズ"である産業廃棄物を"グッズ"のリサイクル商品といつわるおそろべき犯罪をおかした石原産業とそれを支持した環境事業団と三重県の失政は、日本社会の危機を象徴しているようである。」

写真は
昨年7月
22日の現
地調査の



際に撮ったものだ。四日市工場に持ち込まれ、保管されているフェロシルトは45万トンにのぼる。本書を読んで、現地調査で目にしたことが思い出された。ぜひ多くの人に本書を読んでほしい。

(2008年1月4日 記)